

代表的な工夫例を具体的に紹介します。

※色弱者の見え方はシミュレーションツールによるものです。
すべての色弱者がこのように見えているわけではありません。

事例 4 グラフ

円グラフ

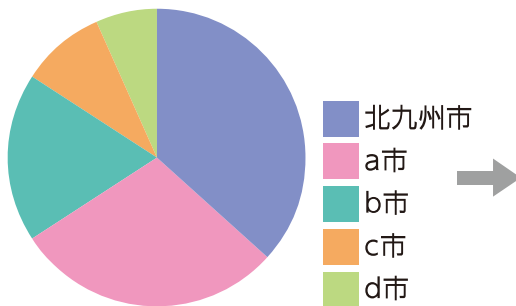


悪い例

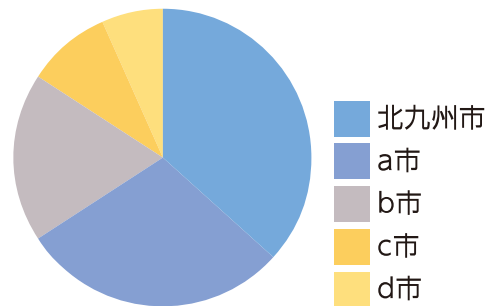
(問題点)

グラフの境界がわかりづらい。凡例をグラフと対比しづらい。
(異なる色であっても、同じ明度や彩度の場合、見分けることが難しい場合があります。)

○一般色覚者の見え方



○色弱者の見え方

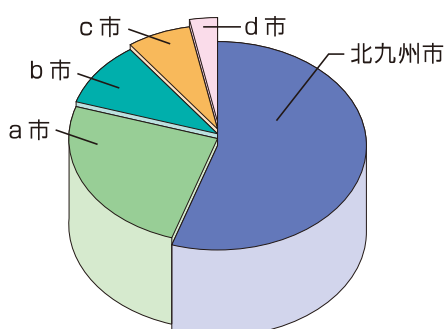


良い例

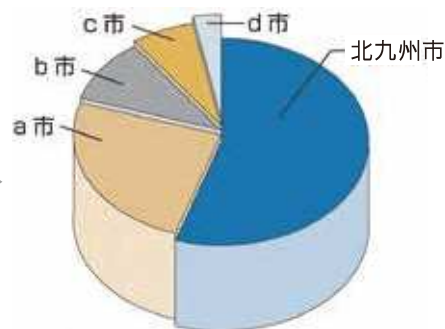
(改善点)

彩度と明度に差がある色を組み合わせ、隣の色とコントラストをつける。グラフを立体化して色を分離させる。領域に引き出し線をつけ、何を表すかを指し示す。

○一般色覚者の見え方



○色弱者の見え方



折れ線グラフ

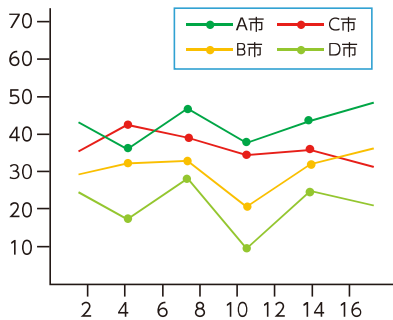


悪い例

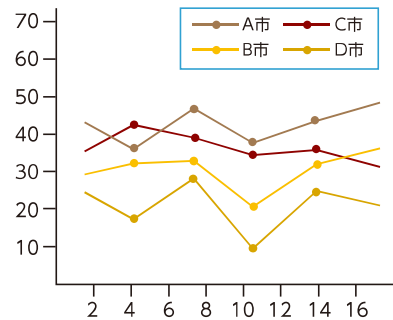
(問題点)

線が細いため色が見分けにくく、グラフの情報がわかりにくい。

○ 一般色覚者の見え方



○ 色弱者の見え方



良い例

(改善点)

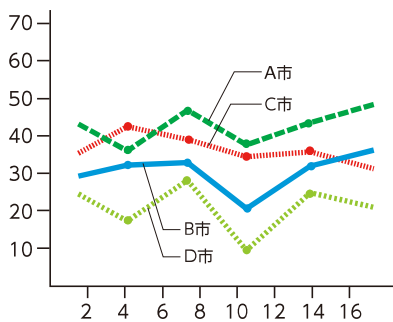
色の組み合わせを考える。

線を太くして色の面積を広くする。

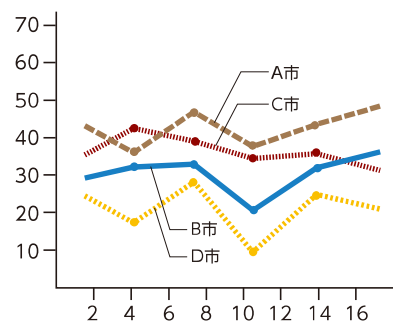
凡例をやめて引き出し線をつけ、何を表すかを指し示す。

線の種類を工夫する。

○ 一般色覚者の見え方



○ 色弱者の見え方



補足

〈その他の工夫例〉

○ 色の識別は、同系色で濃淡をつけることも効果的です。

○ 色が見分けづらい場合、点網掛けや線網掛け(ハッチング)を加えると識別しやすくなります。

